日ごろから飼い主ができること



社会化

社会化とは、人や他のペット、様々な環境に慣らしていくことです。これをすることで、他人や他のペットに友好的に接することができ、人もペットも避難生活のストレスが減り、預ける場所で迷子や保護された時でも扱いやすくなります。

・人やペットに慣らしておく
・様々な音に慣らしておく
・ケージやキャリーバッグに慣らしておく

社会化については、かかりつけの獣医師や訓練士などの専門家に相談しましょう。

しつけと健康管理

災害時には、人もペットも大きなストレスがかかります。慣れない避難所生活では、大勢の見知らぬ人やペットと一緒に生活することから、体調を崩しがちです。普段から健康管理に注意し、ブラッシングなどで体を清潔に保ち、予防接種や寄生虫の駆除をしておきましょう。

また、周りの人へのためだけでなく、ペットのストレスを軽減させる意味でも、しつけを普段からしておきましょう。

<犬のしつけ>

・「まて」「おすわり」「ふせ」などのしつけ
・ケージやキャリーバッグに入ることを嫌がらない
・決められた場所での排泄





<猫のしつけ>

・ケージやキャリーバッグに入ることを嫌がらない
・猫用トイレでの排泄
・人や他のペットを怖がらない

その他にも、飼い主ができることはたくさんあります。
ペットを守ることができるのか飼い主だけです！
そのためにも、日ごろの準備をしっかりしておきましょう！

<問合せ先>
岡山県保健医療部生活衛生課　TEL 086-226-7338
岡山県動物愛護センター　TEL 086-724-9512

一緒に避難しよう！

ペットの防災対策



ペットを守れるのは飼い主だけです。
日ごろから、災害が発生した時のペット対応について
家族と一緒に話していますか？
事前の準備が、いざという時に役立ちます！

岡山県

ペットの防災対策に必要なこと

災害は突然、やって来ます。
災害が発生したら、まずは飼い主自身の安全確保を大前提として、ペットと一緒に避難所に避難すること（ペット同行避難）が、国によって推奨されています。飼い主とペットが一緒に安全に避難でき、周囲の人に迷惑をかけずに安心して過ごすためにも、日ごろから災害への心構えと備えが大切になります。



●災害に備えて

□住まいの防災対策（地震対策）を行いましたか
□家族で防災について話し合いましたか
□地域の避難所や避難経路を確認しましたか
□家族でペットを連れた避難訓練をしましたか
□ケージやキャリーバッグなど動物を避難させる用品を準備しましたか
□ペットに迷子札（犬は狂犬病予防法に基づく鑑札、注射済票）及びマイクロチップの装着はしましたか
□ペットに必要なしつけや予防接種などの健康管理をしていますか
□ペット用品やペットフード数日分（３日～１週間）の備蓄はしていますか
□この他、避難の時に持参するもの（診察券や薬など）を用意していますか

●家族で話し合い

災害が起こった時にどうするかについて、様々な場面を想定した対策を家族全員で話し合っておきましょう。災害の時にペットを守れるか、避難ができるのかについて、飼っているペットの種類や数をよく考えましょう。

・家族間の連絡方法及び集合場所
・非常持ち出し袋など備蓄物資の保管場所など
・飼っているペットの守り方及び避難方法
・飼い主が留守中の災害時の対処法



●避難訓練でのチェックポイント

まずは、住んでいる地域の避難所や避難経路を確認しましょう。また、地域の避難訓練等でペットを連れて避難する方法を地域住民と話し合っておきましょう。

・避難所までの移動手段確保と所要時間
・ガラスの破損や看板落下などの危険な場所
・通行できないときの迂回路
・避難場所でのペットの反応や行動
・ペットが苦手な人への配慮

飼い主の責任

一緒に連れていけますか？

●頭数を考えていますか？

一緒に連れていける頭数は限られます。日ごろから、適正な頭数を飼いましょう。

既に複数頭飼育し、家族だけで避難が難しい場合は、ご近所や仲間などに、あらかじめお願いしておきましょう。

●不妊去勢手術をしていますか？

不妊手術をしておくと、多くのペットと一緒の避難所でも、繁殖のための争いやストレスを軽減できます。また、はぐれている間に繁殖して放浪する動物が増えれば大きな問題となります。

問題行動防止のためにも、不妊去勢手術をしておきましょう。

●猫は室内飼いをおススメします！

猫が外にいると、災害が起きても呼び戻すことができず、一緒に連れていくことができません。

猫の室内飼いは、普段の猫の健康と安全を守ると同時に、災害への重要な備えです。

●大きさや健康状態を把握していますか？

病気や高齢のペットを飼っている場合は、補助具などの移動手段を考えたり、家族以外に移動などを手伝ってくれる人を、あらかじめ探しておきましょう。

身元を示すものを着けていますか？

災害に驚いて逃げてしまい、ペットが迷子になることがあります。保護された際に、元の飼い主のところに戻れるよう、普段から、外から見える迷子札などを着けましょう。また、マイクロチップを装着することで、首輪が取れた場合でも身元が分かり、二重対策にもなります。

